

12. (仮称) 中央図書館基本構想

「豊中市(仮称)中央図書館基本構想」(以下「基本構想」)策定に向け、令和2年度に実施した取り組みは以下のとおり。(5ページ参照)

<図書館の未来を考えるオンラインミーティングの開催>

これからの図書館のあり方について意見を出し合い、「基本構想」に反映させるため、Web会議システムを利用したオンラインでのミーティングを、令和2年9月から11月の間で計4回開催した。10代から80代まで幅広い年代の参加者13名が、図書館の将来について議論した。

参加者からは、ICT技術を活用した図書館サービスの新たな展開とともに、情報が行き届かない人々への支援をおこなう役割を期待する意見が寄せられた。また、積極的な情報発信による新たな利用者層の開拓や、司書の専門性を活かしたサービス提供への期待も伺うことができた。



<オンラインシンポジウム「図書館でつながる新たな可能性」の開催>

これからの図書館サービスの役割や可能性について考える契機となるよう、講演とパネルディスカッションによるシンポジウム「図書館でつながる新たな可能性」を、令和3年1月にオンラインで開催し、66名が参加した。

講演は「これからの図書館の可能性について」と題し、奈良大学文学部教授・嶋田学さんに、市民とともにこれからの図書館について考え、価値を創造していくことの重要性や、コロナ禍を踏まえた図書館サービスの再構築を進めることの必要性についてご講演いただいた。

またパネルディスカッションでは、コーディネーターに嶋田学さん、パネリストに豊中市立図書館協議会委員/豊中図書館の未来を考える会・天瀬恵子さん、しょうないREK代表・小池繁子さん、一般財団法人建築保全センター・池澤龍三さんをお迎えし、岩元義継教育長を含めた5名で「これからの豊中市立図書館に期待すること」をテーマに議論していただいた。

このほか、シンポジウムでは「基本構想」の素案について説明し、同日より開始した同構想素案への意見募集についても案内した。

<(仮称)中央図書館基本構想策定に係るヒアリングの実施>

図書館施策の動向や機能・資料配置のあり方、(仮称)中央図書館の整備を見据えた建築に関する知見について、構想策定の参考とするため、3名の学識経験者から意見聴取をおこなった。また、子どもの読書活動推進や障害者サービス、多文化サービスなど、さまざまな分野で図書館と協働して活動をしている計14の関係団体からも、今後の図書館サービスや(仮称)中央図書館機能について意見聴取した。

<(仮称)中央図書館基本構想策定委員会の開催>

令和元年度に引き続き、庁内会議である(仮称)中央図書館基本構想策定委員会を設置し、会議を3回開催して庁内関係各課と構想策定に向けた検討をおこなった。

<(仮称)中央図書館基本構想 素案に対する意見公募>

令和3年1月15日から2月5日の間、「基本構想」の素案への意見公募を実施した。29の個人・団体から計79件の意見が寄せられ、同構想の内容を見直した。また各意見については今後の同構想推進の参考とする。

<(参考)(仮称)中央図書館基本構想に定めた評価指標>

「基本構想」では、進行管理を目的とした評価指標と目標を設定している。令和2年度の各評価指標の値は以下のとおり。

評価指標		目標水準	令和2年度
指標①	実貸出利用率	中央館開館の翌年度に20%	13.3%
指標②	全館の年間利用者数	中央館開館の翌年度に200万人	1,190,190人
指標③	国立国会図書館レファレンス協同データベースに公開したレファレンス事例のアクセス数	60万件以上	825,301件
指標④	総出版数に対する図書館における購入タイトル数の比率	50%以上	51.7%
指標⑤	市民一人あたりの図書館費	令和6年度に2,300円 中央館開館の翌年度に2,000円	2,562円
指標⑥	利用者満足度	(評価手法も含め令和3年度に検討)	